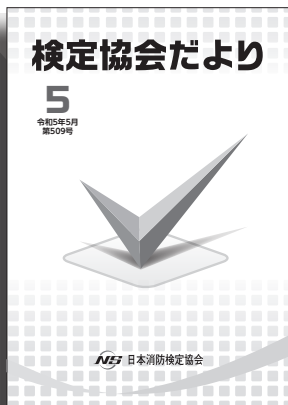


検定協会だより

5

令和5年5月
第509号





令和5年5月号

<http://www.jfeii.or.jp>

目次

巻頭のことば

- 1 「日本一住みよく、災害に強いまち」へ
～みらいつなぐ北九州～

北九州市消防局長 本脇 尉勝

協会情報

- 4 消防ポンプ自動車の機関及び車台一覧

消火・消防設備部 消防設備課

- 7 放水型ヘッド等スプリンクラー設備の評価結果概要について
虎ノ門事務所

- 9 「東京国際消防防災展2023」への展示ブース出展について

企画研究部 情報管理課

- 11 消防機器早わかり講座 消火器

消火・消防設備部 消火設備課

お知らせ

- 23 「令和5年度一般公開」を終えて

企画研究部 情報管理課

- 25 「(仮称) (新) 中央試験場」新築工事のお知らせ

総務部 監理課

- 27 有効期限を経過した受託評価品目

- 28 協会通信・業界の動き・
消防庁の動き

- 32 検定・性能評価・受託評価数量
(令和5年4月)

- 30 新たに取得された型式一覧

「日本一住みよく、災害に強いまち」へ ～みらい つなぐ 北九州～

北九州市消防局長
本 脇 尉 勝



みらい つなぐ 北九州 60th

北九州市は、1963年（昭和38年）に旧5市（門司、小倉、若松、八幡、戸畑）が対等合併して誕生し、都道府県庁所在地以外では初めての政令指定都市となりました。2023年（令和5年）2月には市制60周年を迎え、「みらい つなぐ 北九州」をキャッチフレーズに様々な周年事業を展開しています。

当市は、1901年、官営八幡製鐵所が操業開始して以降、「ものづくりのまち」として発展し、日本の経済成長を支えてきました。

一方、その過程で、1960年代には、大気汚染や水質汚濁といった深刻な公害問題を抱えました。しかし、地域の婦人会をはじめとした市民、大学や企業、行政が一丸となって問題解決に取り組んだことにより、1980年代には、環境庁から「星空の街」に選ばれるまでに大きく改善しました。さらに2022年3月には「日本新三大夜景都市」にランキング1位で再認定されるなど、「夜景が美しい街」としても注目を集めています。

また、環境問題解決の過程で培った「市民力」や「技術力」は、ESD活動によるまちづくりや、アジア諸国への環境国際協力などに生かされ、これらの取組みから国内初となる「SDGs未来都市」にも選定されています。

当市は、『真の豊かさ』にあふれ、世界に貢献し、信頼される『グリーン成長都市』をSDGsのビジョンとして掲げ、経済・社会・環境の三側面に統合的に取り組み、「日本一住みよいまち」の実現を目指しています。

以下、当局における取組みの一部をご紹介します。



カーボンニュートラルの実現に向けた取組み

カーボンニュートラルの実現に向けて、消防施設への「第三者所有方式」（電力会社が施設に省エネ機器を設置、所有、管理するもの）による省エネ空調設備や太陽光パネルの設置などの取組みを、加速度的に推進しています。消防庁舎（消防署等）の電力は、市内のごみ焼却炉や太陽光パネルで発電した再生可能エネルギーを活用しており、空調やLED照明については、IoT（インターネット経由で通信するもの）により、屋外の明るさに合わせた照度の調整や、時間・曜日ごとに細かなスケジュールを設定するなど、効率的な管理を行い、電力消費量の抑制に取り組んでいます。

環境に配慮した石けん系泡消火剤を活用した取組み

本市では、地元の産学官で共同開発した、環境への負荷が少なく、消火性能及び消泡性能に優れた「石けん系泡消火薬剤（ミラクルフォーム）」を用いた消防活動を行っています。

昨年からは、国定公園・平尾台で毎年実施される野焼きにおいて、飛火予防のための散水にも利用しています。

また、JICA草の根技術協力事業で、インドネシア共和国において、泥炭・森林火災対策として泡消火薬剤を用いた消火技術指導を行うなど、国際的にも貢献しています。

大規模市場・商店街火災を受けての取組み

昨年4月、「北九州の台所」とも呼ばれ、観光スポットでもある小倉北区の「旦過市場」とその周辺で、42店舗を焼損する大規模な火災が発生、また同年8月にも同場所周辺において45店舗を焼損する火災が発生し、全国的にも大きなニュースとなりました。これを受け、当局では、地域住民の生活に直結した社会インフラである市場・商店街を火災から守るべく、公費による「119番自動火災通報システム」の設置拡充を進めるとともに、緊急防火指導を実施しました。

また、昨年11月に消防職員OB14名を「防火指導員」として採用し、市内の木造飲食店約650店舗を一軒一軒回る、きめ細やかな防火指導を行いました。加えて、昨年10月から有識者による「火災予防対策のあり方検討会」を3回開催し、木造商店街密集地域

における今後の火災予防対策のあり方について、専門的な見地からご意見をいただき、今年4月から、査察周期の短縮や、若手職員の育成などの取り組みに着手したところです。

救急活動の体制強化に向けた取り組み

救急行政に目を向けますと、高齢化の進展等を背景に全国的に救急出動が増加傾向にある中、本市では、昨年、過去最高の6万件に迫る出動件数となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、救急搬送困難事案が多く発生しましたが、救急出動が多発する場合には、通常の救急隊に加え、非常用救急車を活用して臨時に救急隊を増隊する体制を整えたほか、今年4月からは、救急需要が特に高い日中に活動する「機動救急隊」を新設して、体制強化を図ったところです。

今後も様々な取り組みを展開し、市民が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するとともに、市民ニーズや社会情勢を的確に捉え、様々な課題に対処してまいります。

結びに、貴協会の益々のご発展と、全国の消防関係者の皆様のご活躍を祈念申し上げ、巻頭の言葉とさせていただきます。



消防ポンプ自動車の機関及び車台一覧

消火・消防設備部消防設備課

下記一覧表は当協会が試験を行い、動力消防ポンプの技術上の規格を定める省令（昭和61年自治省令第24号）に適合するものと判断した消防ポンプ自動車に用

いる機関、車台及び駆動装置を各会社別にまとめたものです。（令和5年4月1日現在）

消防ポンプ自動車の機関及び車台一覧表

令和5年4月1日現在

社名	機 関			車 台				車 両 総重量 (t)	駆 動 装 置 型 式 (キヤ比)	備 考 (適用補助型式等)			
	型 式	最高回転等 (kW(PS)/rpm)	総 排気量 (cc)	車 名 型 式	車 台 型 式	ホイル ベース (m)	最 大 積 載 量 (t)						
日野自動車株式会社	N 0 4 C	100(136)/3,000 110(150)/2,500	4,009	SKG-XZU600E	XZU600	2.525	3.00	7.30	HWOM35A (0.981) (1.106)	電気式ガバナ (CD-1)			
				SKG-XZU640M	XZU640	2.80							
				SKG-XZU685M◎	XZU685								
				TKG-XZU600E	XZU600	2.525							
				TKG-XZU640M	XZU640	2.80							
				TKG-XZU685M◎	XZU685								
				TPG-XZU600E	XZU600	2.525							
				TPG-XZU640M	XZU640	2.80							
				2RG-XZU600E	XZU600	2.525							
				2PG-XZU600E	XZU600								
				2RG-XZU640M	XZU640	2.825							
				2PG-XZU640M	XZU640								
				2KG-XZU685M◎	XZU685	2.80							
				A 0 5 C	173(235)/2350 177(241)/2300	5,123					2PG-FD2ABA	FD2AB	3.32
	2KG-FD2ABA		3.79				3.80						
	2DG-FD2ABA												
	2KG-FX2ABA◎	FX2AB	3.79				3.40	8.00					
	2PG-GD2ABA	2KG-GD2ABA	2DG-GD2ABA	2PG-GX2ABA◎	GX2AB	3.79	6.00	11.30					
6.80													
4.00							6.10				11.90		
6.90													
2PG-FE2ABA							FE2AB				3.79	7.50	14.50
2KG-FE2ABA											4.58	7.80	
2DG-FE2ABA													
2PG-FE2ACA	2KG-FE2ACA	2DG-FE2ACA	2PG-FE2ACA	FE2AC									
										2KG-FE2ACA			
										2DG-FE2ACA			
A 0 9 C	230(313)/2,200 235(320)/1,800	8,866	LKG-FH1AHAA	FH1AHA	4.18	9.10	20.00	SP64AG (1.650) AC858W	電気式ガバナ (水槽車II、化学車 II~V、大I、はし				
			LKG-FH1ALAA	FH1ALA	4.88	8.90							

		271(368)/2,200 279(380)/1,800	8,866	LDG-FR1APBA LDG-FS1APBA LDG-FW1ATBA LDG-PR1APBF ※	FR1APB FS1APB FW1ATB PR1APB	5.77 5.55 6.35 5.51	13.90 13.60 13.30 —	22.00 — — 22.00	(1.672) AC870W (1.420)(1.610) ZF110R (0.97) ZF110S (0.97)	ご車、屈折はしご車、 大型高所放水車等)
		230(313)/2,200 235(320)/1,800	8,866	QKG-FH1AHAA QKG-FH1ALAA	FH1AHA FH1ALA	4.18 4.88	9.10 8.90	20.00	SP64AG (1.650) AC858W (1.672)	
		271(368)/2,200 279(380)/1,800	8,866	QDG-FR1APBA QKG-FS1APBA QDG-FW1ATBA	FR1APB FS1APB FW1ATB	5.77 5.55 6.35	13.90 13.60 13.30	22.00	(1.672) AC870W (1.420)(1.610)	
		230(313)/2,200 235(320)/1,700	8,866	QPG-FH1AHDA QPG-FH1ALDA	FH1AHD FH1ALD	4.18 4.88	9.10 8.90	20.00	SP64AG (1.650) AC858W (1.672)	
		271(368)/2,200 279(380)/1,800	8,866	QDG-FR1APEA QPG-FS1APEA QPG-FW1ATEA QDG-PR1APEF ※	FR1APE FS1APE FW1ATE PR1APE	5.77 5.55 6.35 5.51	13.60 13.50 13.30 —	22.00 — — 22.00	(1.672) AC870W (1.420)(1.610) ZF110R (0.97) ZF110S (0.97)	
		230(313)/2,200 235(320)/1700	8,866	2PG-FH1AGA	FH1AG	4.8	8.80	18.00	SP64AG (1.650) AC858W (1.672)	
		271(368)/2,200 279(380)/1,800	8,866	2DG-FR1AJA 2PG-FQ1AJG 2PG-FW1AJG 2PG-FW1AHG 2DG-PR1APJF ※	FR1AJ FQ1AJ FW1AJ FW1AH PR1APJ	5.7 5.725 6.325 7.075 5.51	13.30 13.90 13.00 15.90 —	22.00 — — 25.00 21.55	(1.672) AC870W (1.420)(1.610) ZF110R (0.97) ZF110S (0.97)	
い す ゞ 自 動 車 株	4 H K 1 F	93(127)/2,700 154(210)/2,400	5,193	2RG-FRR90S2 2PG-FRR90S2 2RG-FSR90S2 2PG-FSR90S2 2RG-FRS90S2◎ 2PG-FRS90S2◎ 2RG-FSS90S2◎ 2PG-FSS90S2◎	FRR90 FRR90 FSR90 FSR90 FRS90 FRS90 FSS90 FSS90	3.26	3.70	8.00	PFC (1.235)	電気式がハナ (CD-I、水槽車、 化学車 I ~IV等)
							3.75			
						3.79	3.70			
						3.26	3.70			
							3.75			
						3.79	3.70			
						3.26	6.00			
						3.79	6.20			
						3.26	6.00			
						3.79	6.20			
						3.79	3.20			
						3.70	2.60			
						3.79	3.20			
						3.70	2.60			
3.79	5.80									
	10.99									
3.70	5.50									
3.79	5.80									
	10.99									
3.70	5.50									
3.79	5.80									
	10.99									
93(127)/2,700 177(240)/2,400	5,193	2PG-FVR90U2 2RG-FTS90S2◎ 2PG-FTS90S2◎	FVR90 FTS90 FTS90	4.10 4.25	7.90 7.60	16.00 14.70				
4 J Z 1 F	103(140)/3,200 110(150)/2,800	2,999	2RG-NLR88N 2RG-NMR88N 2RG-NLS88AN◎ 2PG-NMS88AN◎	NLR88 NMR88 NLS88 NMS88	2.75	1.75	4.99	PFA (1.113) (1.195) PFA-1 (1.023) (0.954)(0.977) PFE (1.105)	電気式がハナ (CD-I)	
					2.75	3.00	7.49			
					2.76	1.65	4.99			
					2.76	2.00	6.50			
							7.00			
ト ヨ タ 自 動 車 株	N O 4 C	100(136)/3,000 110(150)/2,500	4,009	SKG-XZU600H SKG-XZU640 SKG-XZU685◎ TKG-XZU600H TKG-XZU640 TKG-XZU685◎	XZU600 XZU640 XZU685 XZU600 XZU640 XZU685	2.525	3.00	7.30	HWOM35A (0.981)(1.106)	電気式がハナ (CD-I)
						2.80				
						2.525				
						2.80				
						2.525				
						2.80				

			TPG-XZU600H	XZU600	2.525					
			TPG-XZU640	XZU640	2.80					
	100(136)/3,000	4,009	2RG-XZU600H	XZU600	2.525					
	110(150)/2,380		2PG-XZU600H	XZU600						
			2RG-XZU640	XZU640	2.825					
			2PG-XZU640	XZU640						
			2KG-XZU685◎	XZU685	2.80					
U D ト ラ ッ ク ス 株	4HK1F	93(127)/2,700	2RG-BRR90S2	BRR90	3.26	3.70	8.00	PFC (1.235)	電気式がハナ (CD-II、水槽車、 化学車I～IV等)	
		154(210)/2,400				3.75				
						3.79	3.70			
			2PG-BRR90S2	BRR90	3.26	3.70	8.00			
						3.75				
						3.79	3.70			
			2RG-BSR90S2	BSR90	3.26	6.00	10.99			
						3.79	6.20			
			2PG-BSR90S2	BSR90	3.26	6.00	10.99			
						3.79	6.20			
			2RG-BRS90S2◎	BRS90	3.79	3.20	8.00			
						3.70	2.60	8.00		
			2PG-BRS90S2◎	BRS90	3.79	3.20	8.00			
						3.70	2.60	8.00		
			2RG-BSS90S2◎	BSS90	3.79	5.80	10.99			
							11.95			
						3.70	5.50	10.99		
			2PG-BSS90S2◎	BSS90	3.79	5.80	10.99			
							11.95			
						3.70	5.50	10.99		
		93(127)/2,700	2PG-BVR90U2	BVR90	4.10	7.90	16.00			
	177(240)/2,400	5,193				9.00				
			2RG-BTS90S2◎	BTS90	4.25	8.10	14.70			
			2PG-BTS90S2◎							

注：車名型式中「※」は全輪操舵、「◎」は全輪駆動であることを示す。



放水型ヘッド等スプリンクラー設備の 評価結果概要について

虎ノ門事務所

1 放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備の総合評価結果

令和4年4月から令和5年3月までに、放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備として総合評価を受けたものではありませんでした。

2 放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備の型式評価結果

令和4年4月から令和5年3月までに、型式評価を行った製品については、次に掲げる試験番号が付与され、型式適合評価に合格したものには、「認定マーク」が貼付されております。

依頼者	評価番号	主要構成装置	型式記号	試験番号	承認年月日
札幌市	S029	放水部	GAS3615DEJ	S029H006	R4.11.30
札幌市	S029	制御部	GJV-AD100	S029C008	R4.11.30
札幌市	S029	制御部	GLB-CBS S5	S029C009	R4.12.20
札幌市	S029	制御部	GLC-CAW	S029C010	R4.12.20
札幌市	S029	手動操作部	GLL-CA J4Z	S029M003	R4.12.20
札幌市	S029	受信部	GLP-CB J4Z	S029R002	R4.12.20

3 型式適合評価依頼件数及び型式適合評価依頼個数

令和4年4月から令和5年3月までの放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備の型式適合評価依頼件数及び型式適合評価依頼個数は次のとおりでした。

(1) 型式適合評価依頼件数

型式適合評価依頼件数	141
------------	-----

(2) 型式適合評価依頼個数

主要構成装置		月別					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
放水部	固定式ヘッド	30	340	323	50	473	1,303
	可動式ヘッド	5	10	12	10	7	2
感知部		5	17	15	18	7	4
制御部	制御盤	2	17	15	17	4	19
	その他	235	329	156	31	103	372
手動操作部		19	39	33	39	6	34
受信部		0	0	1	0	0	0

主要構成装置		月別						
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
放水部	固定式ヘッド	744	132	410	1,158	539	92	5,594
	可動式ヘッド	0	7	14	0	1	14	82
感知部		5	11	27	0	2	24	135
制御部	制御盤	6	13	17	13	2	4	129
	その他	50	111	434	572	43	153	2,589
手動操作部		8	15	16	26	8	5	248
受信部		0	0	1	1	0	0	3



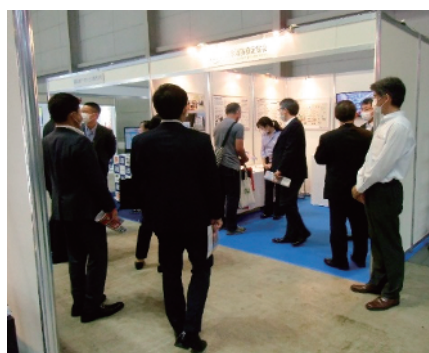
「東京国際消防防災展2023」への 展示ブース出展について



企画研究部 情報管理課

日本消防検定協会では、令和5年6月15日(木)から18日(日)までの4日間東京ビックサイトにおいて開催されます「東京国際消防防災展2023」に協賛し、当協会の事業及び検定制度に関する理解を深めていただくとともに、住宅用防災機器等の普及促進・啓発等を併せて行うために、展示ブースに出展を行う予定です。

- 1 日 時 令和5年6月15日(木)から令和5年6月18日(日)
10:00~17:00 最終日は16:30まで
- 2 会 場 東京都江東区有明3-11-1
東京ビックサイト 東5・6・7ホール・東棟屋外展示スペース
- 3 展示ブース出展予定
 - (1) 当協会の業務紹介ビデオの放映
 - (2) 業務に関する説明パネル等の展示
 - (3) パンフレットの配布
 - (4) 冊子「火災はこうして起きる」及び消火器啓発チラシ等の配布



「横浜国際消防防災展」協会展示ブース

検定協会だより 令和5年5月

東京国際 消防防災展2023

Tokyo International
Fire and Safety Exhibition 2023



会期 2023年6月15日(木) ▶ 6月18日(日) 10:00 ▶ 17:00
(最終日は16:30まで)

会場 東京ビッグサイト 東5・6・7ホール・東棟屋外展示スペース

主催：東京消防庁・株式会社東京ビッグサイト・東京国際消防防災展2023実行委員会

<https://www.fire-safety-tokyo.com/> 東京国際消防防災展 検索

入場無料
(登録制)

Admission Free Jun.15 (Thu.) ▶ Jun.18 (Sun.), 2023

Venue: Tokyo Big Sight (Tokyo International Exhibition Center) East Hall 5, 6, 7 Outdoor Exhibition Area
Organizers: Tokyo Fire Department, Tokyo Big Sight Inc., Tokyo International Fire and Safety Exhibition 2023 Executive Committee





消防機器早わかり講座

消火・消防設備部 消火設備課

消火器

規格省令 [消火器の技術上の規格を定める省令](#)
(昭和39年9月17日自治省令第27号)
設置基準 [消防法施行令第10条](#)
危険物の規制に関する政令第20条



蓄圧式消火器

<燃焼と消火>

日常における燃焼は、空気中において、燃えやすいものに、何らかの方法により熱を加えることにより起こります。つまり、空気中の酸素（支燃物）、燃えやすいもの（可燃物）と熱源（点火源）の3つの要素が作用することにより、燃焼を生じます。

一方、消火は、この3つの要素のうち、いずれか1つを取り除くことにより、達成できます。

(1) 可燃物を取り除く（除去消火）

家庭のガスコンロの栓を閉めると、可燃物であるガスが取り除かれて火が消えます。このように、可燃物そのものを取り除く消火法です。

(2) 酸素の供給を断つ（窒息消火）

アルコールランプの炎を消す場合、蓋をかぶせることにより、空気中の酸素が遮断され、炎が消えます。このように、空気中の酸素を遮断し、窒息状態にして消火する方法です。

(3) 熱を取り去る（冷却消火）

可燃物の温度を燃焼に必要な温度（着火温度：可燃物が自然発火する温度）以下に下げることにより、燃焼を止める消火法です。例えば、紙くずを燃やしているときに水を振りかけると冷却効果とその蒸気で空気を遮断する窒息効果により、火勢がややおとろえ、さらに水を大量にかけると火が消えます。

<消火器とは>

消火器は、初期火災において、消火する人が安全にかつ確実に消火することができるものであり、消火の3つの作用のうち窒息消火及び冷却消火の原理を応用したものです。

消火器は、消防法令等により設置義務がある防火対象物等に設置される「業務用消火器」と、設置義務のない一般住宅等に設置される「住宅用消火器」があります。

消火器の外面の色は、一般的に赤色となっていますが、住宅用消火器にあつては赤色以外のものもあります。

1 消火器の構造と機能

消火器は、その構造や機能により分類されています。

(1) 加圧方式による分類

ア 加圧式消火器

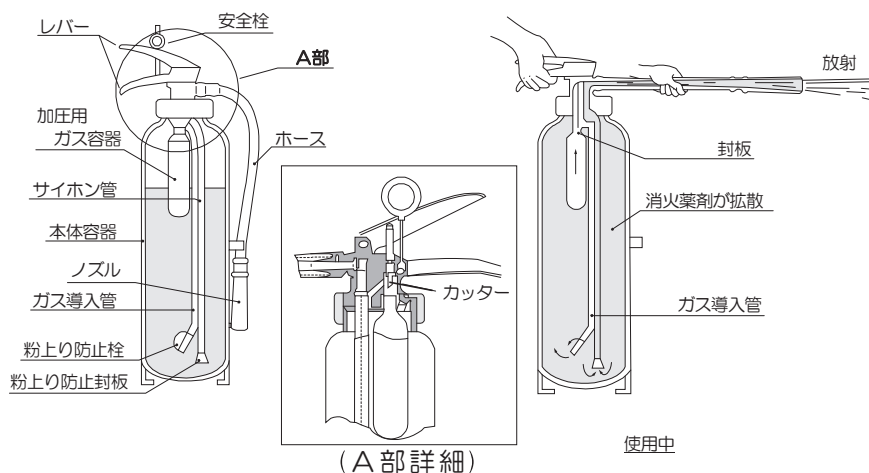


図1 加圧式消火器

加圧式消火器は、使用するときに加圧用ガス容器等を作動させ、それにより生ずる圧力により消火剤を放出するものです。

図1に示すように消火器の容器内に高圧ガス（液化炭酸ガス、窒素ガス又は混合ガス）を充てんした加圧用ガス容器が取り付けられており、レバーを握ることによって切り矢（カッター）で加圧用ガス容器の封板を破ることにより、ガスをガス導入管を通じて容器内に放出させ、その圧力を利用して消火剤を攪拌し、サイホン管、ホース、ノズルを通じて放射するものです。

イ 蓄圧式消火器

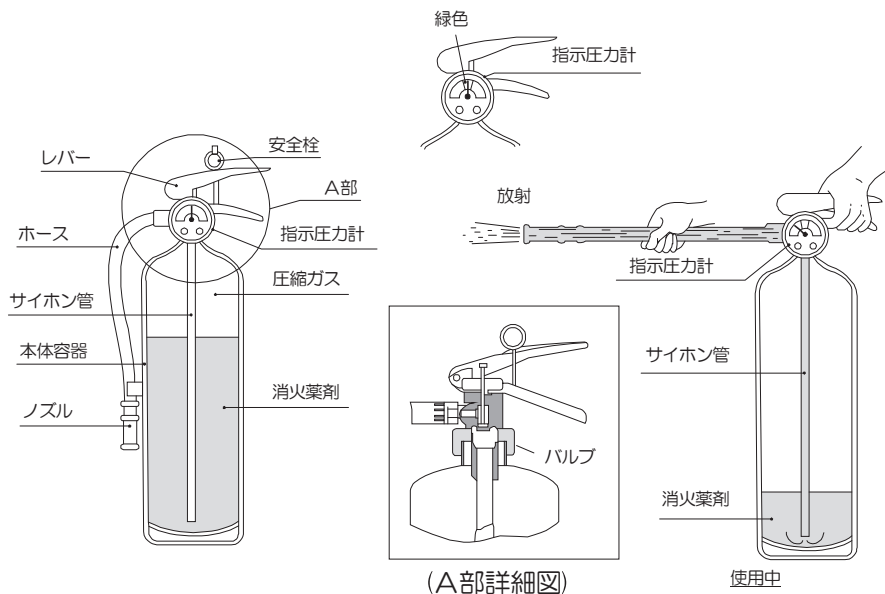


図2 蓄圧式消火器

蓄圧式消火器は、あらかじめ本体容器内に圧縮された空気、窒素ガス等（圧縮ガス）を入れておき、その圧力により消火剤を放射するものです。

図2に示すように、レバーを握ることによってバルブが開き、ガスの圧力を利用して消火剤をサイホン管、ホース、ノズルを通じて放射するものです。

この消火器には、容器内の圧力が常に適正に保たれているかどうかを確認するための指示圧力計が取り付けられています。指示圧力計の指針が緑色範囲内を示していれば有効に使用できます。

(2) 充てんする消火薬剤による分類

消火器に充てんされている消火薬剤の種類により、分類するものです。

ア 粉末消火器

粉末消火器には、消火に適した防湿加工がされた微細な粉末が入っています。また、適応火災により、粉末（ABC）消火器又は粉末（BC）消火器があり、加圧式と蓄圧式があります。

その容器は、大部分が鉄製ですが、ステンレス鋼製やアルミニウム製のものもあります。鉄製の容器には、内外面に耐食塗装が施されています。



粉末消火器

イ 強化液消火器

強化液消火器には、消火に適したアルカリ金属類の水溶液が入っています。加圧式と蓄圧式の2種類があります。容器は、鉄製がほとんどですが、ステンレス鋼製やアルミニウム製もあり、鉄製とアルミニウム製のものについては、内外面に耐食塗装が施されています。



強化液消火器

容器の構造は、蓄圧式の粉末消火器（図2）とほぼ同じであり、現在製造されている消火器のノズルは、主に霧状に放射する構造となっています。

ウ 泡消火器

泡消火器には、化学泡消火器と、機械泡消火器があります。化学泡消火器には、転倒式（図3）と破がい転倒式があり、機械泡消火器には、加圧式と蓄圧式があります。手さげ式では、蓄圧式のもののみ製造されています。

容器は、化学泡消火器はいずれも鉄製で、内外面に耐食塗装が施されています。機械泡消火器は、大部分が鉄製ですが、ステンレス鋼製のものもあります。

（ア）化学泡消火器

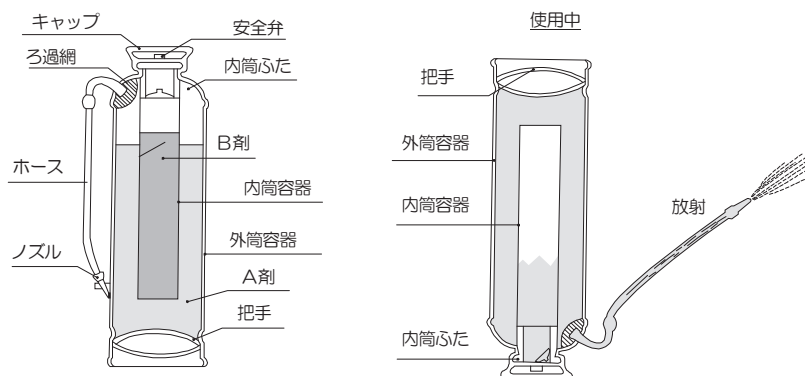


図3 化学泡消火器

化学泡消火器は、泡消火器のうち、消火薬剤の化学反応により生成される泡を放出して消火を行う消火器です。使用時に化学泡消火器を転倒等させることによりA剤とB剤を混合させ、化学反応により発生したガスで泡を放射する消火器です。

（イ）機械泡消火器

機械泡消火器は、合成界面活性剤などを主成分とした水溶液の消火薬剤が充

てんされており、消火薬剤がノズル（発泡ノズル）を通過するとき、空気を吸引し、泡状になって放射されます。

容器等は蓄圧式の消火器（図2）と同じ構造です。

エ 二酸化炭素消火器

二酸化炭素消火器は、容器に液化炭酸ガスが充てんしてあり、レバーを握ることによって、容器弁のバルブを開き、ガスを放射するものです。

容器は、高圧ガスである二酸化炭素が充てんされているため、緑色で塗装されています。



機械泡消火器



二酸化炭素消火器

(3) 運搬方式による分類

消火器を運ぶ場合の方式により分類されます。人が手に提げて運搬する手さげ式が一般的ですが、それ以外の方式もあります。

ア 手さげ式

消火器本体のレバーを手に持ち、使用する消火器。

イ 車載式

消火器本体を安定した状態で走行できる車輪付き消火器。大型消火器など質量35kgをこえる消火器に利用されます。

ウ 据置式

消火器本体を移動させず、ノズル及びホースを火元まで移動させて使用する消火器。

運搬方式による分類

手さげ式

車載式

据置式



車載式消火器



据置式消火器

2 充てんする消火薬剤

消火器に充てんする消火薬剤については、早わかり講座の「消火器用消火薬剤」を参考にしてください。

3 業務用消火器の能力単位

(1) 能力単位

業務用消火器は、能力単位の測定方法により測定した能力単位の数値が1以上のものとされています。ただし、大型消火器で、A火災に適応するものにあつては10以上、B火災に適応するものにあつては20以上とされています。

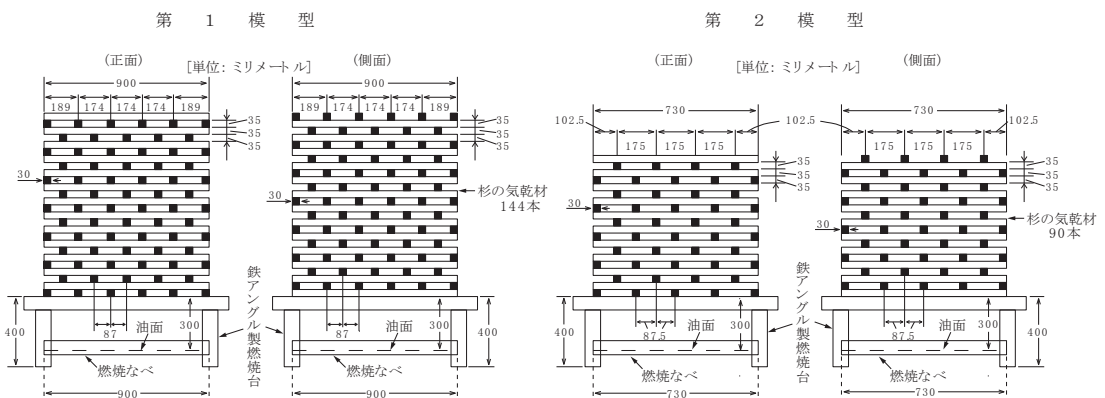
(2) A火災の能力単位の測定方法

ア A火災に対する能力単位の数値は、第1消火試験により測定されます。

イ 第1消火試験は次の(ア)～(カ)により、その判定は(キ)により、行われます。

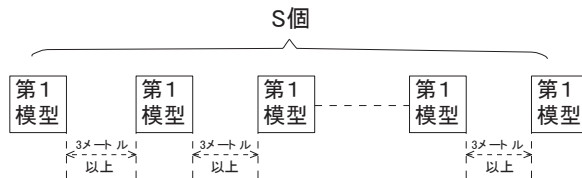
(ア) 第1模型又は第2模型を用ること。ただし、第2模型は、2個以上用いてはならない。

模型 (能力単位)	木材の本数	木材の表面積
第1模型 (A-2)	杉の気乾材 144本	16m ² (8 畳程度)
第2模型 (A-1)	杉の気乾材 90本	8 m ² (4 畳半程度)

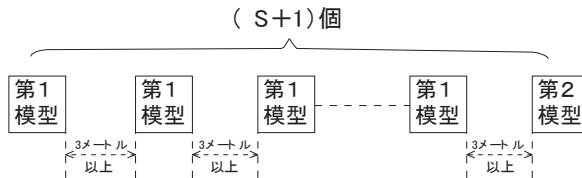


(イ) 模型の配列方法は、次の図のとおりとすること。

a S (任意の数値をいう。) 個の第1 模型を用いる場合



b S 個の第1 模型及び1 個の第2 模型を用いる場合



(ウ) 燃焼なべに、第1 模型にあつては3.0リットル、第2 模型にあつては1.5リットルのJISK 2202に適合する自動車ガソリンを入れ、最初に消火する模型から順次点火すること。ただし、bの場合にあつては、第1 模型より点火すること。

(エ) 消火は、最初の模型に点火した後3分で開始し、点火の順に行なうこと。この場合において、消火を行なった模型に残炎が認められる間は、次の模型に対して消火を開始しないこと。

(オ) 消火器の操作者は、防火衣服を着用しないこと。

(カ) 無風の状態（風速0.5メートル毎秒以下の状態をいう。）において行なうこと。

(キ) 消火剤の放射終了時において残炎が認められず、かつ、放射終了後2分以内に再燃しない場合においては、それらの模型は完全に消火されたものと判定すること。

ウ 前項の規定により第1 消火試験を行った消火器のA火災に対する能力単位の数値は、S個の第1 模型を完全に消火したものにあっては2にSを乗じた数値とし、S個の第1 模型及び1 個の第2 模型を完全に消火したものにあっては2にSを乗じた数値に1を加えた数値とする。

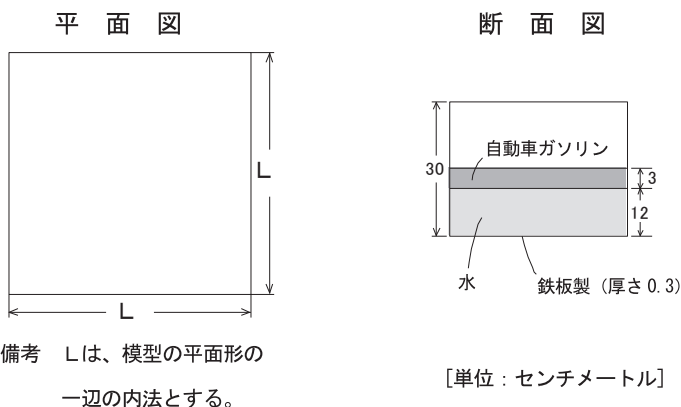
(3) B火災の能力単位の測定方法

ア B火災に対する能力単位の数値は、第2 消火試験及び第3 消火試験により測定されます。

イ 第2消火試験は（ア）～（エ）により、その判定は（オ）により、行われます。

（ア）模型は、aに掲げる形状を有するものでbに掲げる種類のうち模型の番号の数が1以上のものを1個用いること。

a 模型の形状



b 模型の種類

模型の番号 の数値	燃焼表面積 (m^2)	L (cm)
0.5	0.1	31.6
1	0.2	44.7
2	0.4	63.3
3	0.6	77.5
4	0.8	89.4
5	1.0	100.0
6	1.2	109.5
7	1.4	118.3
8	1.6	126.5
9	1.8	134.1
10	2.0	141.3
12	2.4	155.0
14	2.8	167.4
16	3.2	178.9
18	3.6	189.7
20	4.0	200.0

- (イ) 消火は、点火した後1分で開始すること。
 - (ウ) 消火器の操作者は、防火衣服を着用しないこと。
 - (エ) 無風の状態において行なうこと。
 - (オ) 消火剤の放射終了後一分以内に再燃しない場合においては、それらの模型は完全に消火されたものと判定すること。
- ウ 第3消火試験は、(ア)～(カ)により、その判定は(キ)により、行なわれます。
- (ア) 前(ア)a及びbに掲げる模型で、その番号の数値が第2消火試験において当該消火器が完全に消火した模型の番号の数値の2分の1以下であるものを2個以上5個以下用いること。
 - (イ) 模型の配列方法は、その番号の数値が大きい模型から小さい模型の順に平面に一直線上にならべるものとする。この場合において、模型と模型との間隔は、それぞれ隣り合う模型のうちその番号の数値が大きい模型の一辺の長さ以上とすること。
 - (ウ) 番号の数値が大きい模型から順次間をおかずに点火すること。
 - (エ) 消火は、最初の模型に点火した後1分で開始し、点火の順に行なうこと。
 - (オ) 消火器の操作者は、防火衣服を着用しないこと。
 - (カ) 無風の状態において行なうこと。
 - (キ) 消火剤の放射終了後1分以内に再燃しない場合においては、それらの模型は完全に消火されたものと判定すること。
- エ 第2消火試験及び第3消火試験を行った消火器のB火災に対する能力単位の数値は、第2消火試験において完全に消火した模型の番号の数値と、第3消火試験において完全に消火した模型の番号の数値の合計数との算術平均値とする。この場合において、当該算術平均値に1未満の端数がつくときは、その端数を切り捨てるものとする。

4 住宅用消火器

消火器には、住宅に設置することを目的として作られた「住宅用消火器」があります。この住宅用消火器には、以下のような特徴があります。

- (1) 蓄圧式である。
- (2) 消火剤を再充てんできない構造である。
- (3) 消火に適応する火災が確認表示されている。
- (4) 外面が赤色以外の色のものもある。

(5) 使用期間又は使用期限が表示されている。

5 表示

(1) 業務用消火器の一般的な表示

消火器は、アからスまでに掲げる事項を記載した簡明な表示がされています。

ア 消火器の区別

イ 住宅用消火器でない旨、「業務用消火器」の文字

ウ 加圧式消火器又は蓄圧式消火器の区別

エ 使用方法

オ 使用温度範囲

カ B火災又は電気火災に使用してはならない消火器にあっては、その旨

キ A火災又はB火災に対する能力単位の数値

ク 放射時間、放射距離

ケ 製造番号、製造年

コ 製造者名、型式番号

サ 総質量、充てん消火薬剤の質量又は容量

シ 使用消火薬剤

ス その他取り扱い上の注意事項など

(2) 業務用消火器に表示されている適用火災の絵表示



(3) 住宅用消火器の表示

住宅用消火器は、アからセまでに掲げる事項を記載した簡明な表示がされています。

ア 水消火器、強化液消火器、泡消火器又は粉末消火器の区別

イ 住宅用消火器である旨

- ウ 使用方法（併せて図示すること。）
- エ 使用温度範囲
- オ 適応火災の絵表示（次のように図示すること。）

- カ 放射時間
- キ 放射距離
- ク 製造番号
- ケ 製造年
- コ 製造者名
- サ 型式番号



図4 住宅用火災の適応火災表示

- シ 充てんされた消火剤の容量又は質量
- ス ホースの有効長（据置式の消火器に限る。）
- セ 取扱い上の注意事項として次に掲げる事項
 - (ア) 指示圧力計に関する事項
 - (イ) 使用期間又は使用期限に関する事項
 - (ウ) 消火剤の再充てんができない旨
 - (エ) 使用時の安全な取扱いに関する事項
 - (オ) 維持管理上の適切な設置場所に関する事項
 - (カ) 点検に関する事項
 - (キ) 天ぶら油火災に関する事項
 - (ク) 廃棄時の連絡先及び安全な取扱いに関する事項
 - (ケ) その他取扱い上注意すべき事項

認証区分 検 定

根拠条文 [消防法](#)第21条の2

制度の概要 日本消防検定協会又は登録検定機関が規格省令に適合することを試験し、総務大臣が型式承認を行い、日本消防検定協会又は登録検定機関が検査し、合格の表示を付します。合格表示が付されたものでなければ、販売や陳列、工事使用等が禁止（法的拘束力あり）されています。

<表示>

○ 型式番号

日本消防検定協会の行う型式試験において、製品の形状、構造、材質、成分及び性

能が、基準に適合し、かつ、総務大臣の承認を受けたものに付けられる番号です。

『消第〇〇～〇〇号』、自動車用の場合は、『消⑩第〇〇～〇〇号』と表記されます。

○ 型式適合検定合格の表示

日本消防検定協会の型式適合検定に合格した製品には、右図のような型式適合検定合格の表示がシールにより表示されます。



型式適合検定合格の表示（シール）
（大きさ：外径 10mm）

「令和5年度一般公開」を終えて

企画研究部 情報管理課

令和5年度の一般公開を令和5年4月21日（金）に、日本消防検定協会、消防大学校・消防研究センター及び一般財団法人消防防災科学センターの合同で開催いたしました。

一般公開は、科学技術について広く一般の方々に理解と関心を深めていただき、日本の科学技術の振興を図ることを目的として、毎年4月第3週の金曜日に開催しています。

今年度は、4年ぶりの実開催（敷地内の施設の公開や実演等）に加えて、令和3年度から実施しているオンライン開催（消防研究センターホームページによる）を実施しました。

当日は晴天となり、一般の方から消防関係者まで、434名の方にご来場いただき、盛大なイベントとなりました。

当協会では、業務紹介及び住宅防火の推進の観点から各試験場等において下表のような実演や展示を公開しました。

最後に、お越しいただきました皆様、開催にご協力いただきました皆様にお礼申し上げます。



写真1 住宅用消火器の消火実演(消火散水試験場)

【公開項目及び概要】

公開項目	概要	写真
住宅用消火器の消火実演 (消火散水試験場)	・住宅用消火器を使用した天ぶら油火災の消火実演	1
屋内消火栓の操作説明及び操作体験 (スプリンクラー消火試験場)	・屋内消火栓の構造説明と操作実演 ・屋内消火栓を用いて目標物に放水する消火操作の体験 ※協力：一般社団法人日本消防放水器具工業会	2・3
消火器の操作体験 (消火散水試験場)	・訓練用の消火器を用いて目標物に放射する消火の疑似体験	4・5
住宅用防災警報器の展示及び実演（情報館1階）	・当協会の検定に合格した住宅用防災警報器の紹介 ・無線式の住宅用防災警報器が連動する様子	6・7
各種消防用機械器具等の展示 (情報館1階、2階)	・消火器、スプリンクラーヘッド、火災報知設備、消防用ホースなど、各種消防用機械器具等の展示と紹介	8・9
オンライン開催 消防研究センターホームページ (https://nrifd.fdma.go.jp/)による開催	・日本消防検定協会の紹介、業務内容、消防用機械器具等の型式情報等の紹介（インターネットによる動画の紹介） 日時 令和5年4月14日（金）10時00分から 令和5年4月24日（月）16時00分まで	-

検定協会だより 令和5年5月

「令和5年度年度一般公開」の様子



写真2・3 屋内消火栓の操作説明及び操作体験（スプリンクラー消火試験場）



写真4・5 消火器の操作体験（消火散水試験場）

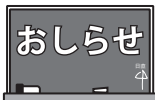


写真6・7 住宅用防災警報器の展示及び実演（情報館1階）



写真8・9 各種消防用機械器具等の展示（情報館1階、2階）

検定協会だより 令和5年5月



「(仮称)(新)中央試験場」新築工事のお知らせ

総務部 監理課

日本消防検定協会（理事長 市橋 保彦）は、2023年4月18日付で「(仮称)(新)中央試験場」の新築工事に着手しましたので、お知らせします。

1. 中央試験場について

中央試験場は、1968年に日本消防検定協会の業務執行機能の中核を担う施設として竣工しました。今般、竣工後50年以上が経過し老朽化が進んだことから試験施設等整備計画に基づき建替えをいたします。

2. (新)中央試験場のコンセプト

(1) 協会のシンボルとなる施設

本施設は、執行機能、執務機能を有する協会の中核を担う施設であり、他の試験施設との動線も考慮した、試験施設の結節点（ハブ）に相応しい建物とする。

(2) 将来のニーズに柔軟に対応できる施設

組織及び業務の継続的な変化に対応可能な柔軟性の高い空間を実現できるように、オープンフロアを基本とし、今後ますます高度化していく情報分野に柔軟に対応できるネットワーク環境の充実を図り、執務の機能と効率性を高める。

(3) カーボンニュートラルへの対応

外壁、窓の断熱性強化等による日射負荷の低減、省エネルギー性能に優れた設備の採用、雑用水としての雨水利用等により、環境負荷の低減に貢献する。

(4) BCP等への対応

地震、台風等による自然災害に備え、高い信頼性及び安全性を有することに加えて、新型コロナウイルス等の感染症予防にも配慮した施設を目指すとともに、来訪者の利便性の向上を図りつつ、セキュリティを考慮した施設とする。

3. 来協される皆様へのお願い

工事期間中は、駐車場が大幅に縮小されます。当協会へお越しの皆様には大変ご不便、ご迷惑をおかけしますが、安全に工事を進めますのでご理解とご協力をお願いします。

4. ご照会先

日本消防検定協会 総務部監理課
電話 0422-44-7471（代表）

検定協会だより 令和5年5月

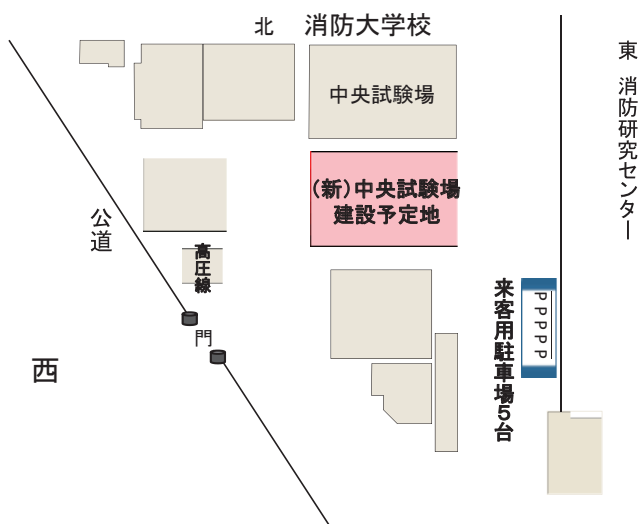
【(新) 中央試験場概要】

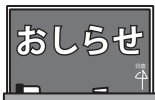
所在地(地番)	東京都調布市深大寺東町4丁目35番地16
敷地面積	約9,057㎡
延床面積	約3,408㎡
階数/建物高さ	地上4階、地下1階 / 14.95m
構造	鉄筋コンクリート造
主な用途	試験場、事務所
竣工	2024年9月(予定)

【外観イメージパース】



【位置図】





有効期限を経過した受託評価品目

【放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備・放水部】

型式番号	承認年月日	住所	依頼者	有効期限の終期日
S007H003	H9.9.4	大阪府枚方市招提田近三丁目5番地	株式会社初田製作所	R5.3.31
S016H009	H10.3.3	大阪府枚方市招提田近三丁目5番地	株式会社初田製作所	R5.3.31
S022H009	H12.3.30	東京都港区高輪二丁目21番38号	株式会社建設工業社	R5.3.31

【放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備・制御部】

型式番号	承認年月日	住所	依頼者	有効期限の終期日
S035C004	H15.3.4	東京都品川区上大崎二丁目10番43号	ホーチキ株式会社	R5.3.31

上記の機械器具等が、型式に係る有効期限を経過しましたのでお知らせします。

上記の機械器具等は、有効期限の終期日以降、当該型式に基づく製品について新たに当協会の型式適合評価を受け、合格表示が行われることはありません。

既に設置され又は型式適合評価を受け合格表示が行われた上記の機械器具等については、型式適合評価時において基準への適合性が確認されており適正な設置及び維持管理がされていれば、当該有効期限の経過による使用への影響はありません。

■■■業界の動き■■■

—会議等開催状況—

◆（一社）日本火災報知機工業会◆

○業務委員会（令和5年4月13日）

- ・住宅用火災警報器関連の報告他
- ・検定申請個数等の定例報告
- ・消防機器等製品情報センター運営会議結果について
- ・事務局長会議の結果について
- ・委員長連絡会報告

○メンテナンス委員会

（令和5年4月28日）

- ・点検実務討小委員会報告
- ・維持運用管理手法小委員会報告
- ・委員長連絡会報告

○技術委員会（令和5年4月20日）

- ・火報システム技術検討小委員会報告
- ・感知器の環境特性調査小委員会報告
- ・委員長連絡会報告
- ・連動機構・装置等火報専門委員会報告

○設備委員会（令和5年4月27日）

- ・設備性能基準化小委員会報告
- ・工事基準書改訂小委員会報告
- ・委員長連絡会報告

○システム企画委員会

（令和5年4月28日）

- ・火報企画小委員会報告について
- ・東京国際消防防災展について
- ・委員長連絡会報告

○住宅防火推進委員会

（令和5年4月26日）

- ・交換推進WGについて

- ・住宅用火災警報器検定申請数について
- ・お客様電話相談室受付結果について
- ・東京国際消防防災展について
- ・委員長連絡会について

◆（一社）日本消火器工業会◆

○第1回 企業委員会

（令和5年4月6日）

- ・検定等申請・回収状況
- ・機器協会 会議報告
- ・消火器リサイクル推進センターからの報告

○第1回 技術委員会

（令和5年4月17日 対面・Web併用会議）

- ・消火器の検定細則について

○第1回 理事・総務合同会議

（令和5年4月25日 対面・Web併用会議）

- ・定例報告
- ・消火器工業会会長表彰候補の件
- ・第63期事業計画（案）承認の件
- ・第63期決算報告（案）承認の件
- ・令和5年度定時総会、会長表彰式及び祝賀会・懇親会の取扱いについて
- ・役員改選（案）承認の件
- ・第64期会費の額と納入方法（案）承認の件
- ・第64期事業計画（案）承認の件
- ・第64期収支予算（案）承認の件

◆（一社）日本消火装置工業会◆

○第430回 技術委員会

（令和5年4月7日 日本消火装置工業会）

協会通信

- ・国土交通省から依頼「建築設備計画基準及び資料 令和3年版」「建築設備設計基準及び資料 令和3年版」の改定について
 - ・公共住宅建設工事共通仕様書(機械編)の問合せについて
 - ・その他
- 第214回 第一部技術分科会
(令和5年4月21日 日本消火装置工業会)
- ・工事基準書改訂WGの活動時期について
 - ・「令和5年度消防用設備等講演会講師」の件について
 - ・その他
- 第210回 第二部技術分科会
(令和5年4月20日 日本消火装置工業会)
- ・廃棄処理施設の紹介資料について
 - ・PFOA、PFHxSの市中在庫調査方法について
 - ・薬剤リストについて
 - ・「令和5年度消防用設備等講演会講師」の件について
 - ・その他
- 第193回 第三部技術分科会
(令和5年4月18日 日本消火装置工業会)
- ・不活性ガス消火設備設計・工事基準書の改訂について
 - ・CO₂安全措置ガイド案について
 - ・「令和5年度消防用設備等講演会講師」の件について
 - ・その他

◆(一社)日本消防ポンプ協会◆

- 総務委員会
(令和5年4月17日 会場・web併用会議)
- ・事務局長会議報告について
 - ・令和5年度第1回理事会について
 - ・第61期定時総会について
 - ・インボイスについて
 - ・新銘板の価格等について
 - ・その他
- 大型技術委員会
(令和5年4月14日 web会議)
- ・新銘板について
 - ・動力消防ポンプの規格省令改正について
 - ・全国消防長会技術委員会について
 - ・その他
- 大型技術委員会・検定協会合同会議
(令和5年3月20日 web会議)
- ・石油コンビナート等災害防止法施行令に係るパブリックコメントについて
 - ・シャシOEM車両の自主表示に係るポンプ試験について
 - ・その他
- 省令改正ワーキンググループ
(令和5年4月28日 日本消防検定協会)
- ・動力消防ポンプの規格省令改正について
 - ・その他

協会通信

検定協会だより 令和5年5月

新たに取得された型式一覧

型式承認

種 別	型 式 番 号	申 請 者	型 式	承認年月日
光電式スポット型 感知器(試験機能付)	感第 2023~1号	パナソニック 株式会社	2種(3V、300mA)・蓄積型(公称蓄積時間10秒)、非防水型、再用型、散乱光式、無線式(発信用・受信用)、特定小規模施設用運動型警報機能付、電池方式(兼用非常電源)	R5.3.17
	感第 2023~2号	パナソニック 株式会社	2種(3V、300mA)・蓄積型(公称蓄積時間10秒)、非防水型、再用型、散乱光式、無線式(発信用・受信用)、特定小規模施設用運動型警報機能付、電池方式(兼用非常電源)	R5.3.17
定温式スポット型 感知器(試験機能付)	感第 2023~3号	パナソニック 株式会社	特種(3V、300mA)・公称作動温度65℃、非防水型、再用型、無線式(発信用・受信用)、特定小規模施設用運動型警報機能付、電池方式(兼用非常電源)	R5.3.17
中継器	中第 2023~1号	能美防災株式会社	直流24V、外部配線抵抗50Ω	R5.3.27
	中第 2023~2号	能美防災株式会社	直流24V、外部配線抵抗15Ω	R5.3.27
	中第 2023~3号	能美防災株式会社	直流24V、外部配線抵抗15Ω	R5.3.27
閉鎖型スプリンクラー ヘッド	ス第 2023~1号	株式会社未来巢	1種可溶片型C72、呼称15(標準r2.6、下向き)	R5.3.9
	ス第 2023~2号	日本ドライケミカル 株式会社	1種可溶片型C96、呼称15(標準r2.6、下向き)	R5.3.22
一斉開放弁	開第 2023~2号	能美防災株式会社	加圧型125(10K、縦横両用)	R5.3.27

型式変更承認

種 別	型 式 番 号	申 請 者	型 式	承認年月日
熱アナログ式スポット 型感知器(試験機能付)	感第 2020~33~1号	日本フェンオール 株式会社	(24V、0.5mA)・公称感知温度40℃~85℃、非防水型、普通型、再用型	R5.3.17
	感第 2020~33~2号	日本フェンオール 株式会社	(24V、0.5mA)・公称感知温度40℃~85℃、非防水型、普通型、再用型	R5.3.17
P型2級受信機 (蓄積式)	受第 24~6~1号	パナソニック 株式会社	交流100V、外部配線抵抗50Ω、公称蓄積時間60秒	R5.3.17
	受第 28~10~1号	パナソニック 株式会社	交流100V、外部配線抵抗50Ω、公称蓄積時間60秒	R5.3.17
定温式住宅用防災 警報器	住警第 26~116~1号	矢崎エナジーシステム 株式会社	外部電源方式(AC100V、12mA)、自動試験機能付	R5.1.20

品質評価 型式評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認 年月日
特殊消防ポンプ自動車 又は特殊消防自動車に 係わる特殊消火装置	NDT-15-9	日本ドライケミカル 株式会社	水槽付消防ポンプ自動車	R5.3.13
	TEWP-15-2	帝国繊維株式会社	水槽付消防ポンプ自動車	R5.4.3

認定評価 型式変更評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認 年月日
非常警報設備・ スピーカー	認評放第 2019~12~1号	株式会社JVCケン ウッド・公共産 業システム	コーン型(3W/5W・L級)、音響パワ ーレベル95dB	R5.3.24
	認評放第 2020~2~1号	株式会社JVCケン ウッド・公共産 業システム	コーン型(1W/3W/6W・L級)、音響 パワーレベル92dB	R5.3.24
	認評放第 2020~5~1号	株式会社JVCケン ウッド・公共産 業システム	ホーン型(1W/3W/6W・L級)、音響 パワーレベル94dB	R5.3.24
	認評放第 2020~6~1号	株式会社JVCケン ウッド・公共産 業システム	ホーン型(3W/10W/15W・L級)、音響 パワーレベル93dB	R5.3.24
	認評放第 2020~7~1号	株式会社JVCケン ウッド・公共産 業システム	ホーン型(10W/20W/30W・L級)、音響パ ワーレベル95dB	R5.3.24

検定対象機械器具等申請一覧表

種別	型式試験 申請件数	型式変更試験 申請件数	型式適合検定				
			申請件数	申請個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)	
消火器	大型	0	0	20	4,759	125.6	125.6
	小型	0	0	66	463,969	118.9	118.9
消火器用消火薬剤	大型用	0		2	42	8.0	8.0
	小型用			10	10,062	263.0	263.0
泡消火薬剤		1		14	79,360	146.7	146.7
感知器	差動式スポット型	2	0	44	301,638	97.5	97.5
	差動式分布型	0	0	12	7,605	115.2	115.2
	補償式スポット型	0	0	0	0	-	-
	定温式感知線型	0	0	0	0	-	-
	定温式スポット型	2	0	50	162,679	112.1	112.1
	熱アナログ式スポット型	0	0	8	5,657	56.5	56.5
	熱複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	イオン化式スポット型	0	0	1	100	皆増	皆増
	光電式スポット型	0	0	51	157,681	106.2	106.2
	光電アナログ式スポット型	0	0	18	58,875	72.0	72.0
	光電式分離型	0	0	5	150	63.8	63.8
	光電アナログ式分離型	1	0	1	100	皆増	皆増
	光電式分布型	0	0	0	0	-	-
	光電アナログ式分布型	0	0	0	0	-	-
	煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	熱煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	紫外線式スポット型	0	0	0	0	-	-
	赤外線式スポット型	0	0	9	1,375	196.7	196.7
	紫外線赤外線併用式スポット型	0	0	0	0	皆減	皆減
炎複合式スポット型等	0	0	0	0	-	-	
発信機	P型1級	0	0	7	19,486	69.1	69.1
	P型2級	0	0	5	3,250	56.6	56.6
	T型	0	0	0	0	-	-
	M型	0	0	0	0	-	-
中継器		0	0	90	47,283	102.2	102.2
受信機	P型1級	2	0	45	2,824	115.0	115.0
	P型2級	0	0	19	3,748	118.9	118.9
	P型3級	0	0	0	0	-	-
	M型	0	0	0	0	-	-
	R型	0	0	10	162	137.3	137.3
	G型	1	0	3	4	66.7	66.7
	GP型1級	2	0	7	14	127.3	127.3
	GP型2級	0	0	0	0	-	-
	GP型3級	0	0	8	39,279	68.3	68.3
GR型	1	0	12	140	98.6	98.6	
閉鎖型スプリンクラーヘッド	0	0	59	291,120	195.0	195.0	
流水検知装置	0	0	47	3,251	160.1	160.1	
一斉開放弁		0	0	23	1,402	149.5	149.5
金属製避難はしご	固定はしご	0	0	1	20	100.0	100.0
	立てかけはしご	0	0	0	0	-	-
	つり下げはしご	0	0	19	10,358	106.8	106.8
緩降機		0	0	3	450	160.7	160.7
住宅用防災警報器	定温式住宅用防災警報器	1	0	17	107,304	271.8	271.8
	イオン化式住宅用防災警報器	0	0	0	0	-	-
	光電式住宅用防災警報器	1	0	34	424,350	295.7	295.7
合計		14	0	720	2,208,497	134.3	134.3

※前年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

性能評価申請一覧表

特殊消防用設備等性能評価業務	性能評価申請件数	性能評価変更申請件数
特殊消防用設備等の性能に関する評価	0	0

受託評価等依頼一覧表

品質評価業務	型式評価依頼件数	型式変更評価依頼件数	更新等依頼件数	型式適合評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年 同月比 (%)	対前年 累計比 (%)	
補助警報装置及び中継装置	0	0	0	0	0	-	-	
音響装置	0	0	0	0	0	皆減	皆減	
予備電源	0	0	1	3	17,200	95.6	95.6	
外部試験器	0	0	0	5	170	566.7	566.7	
放火監視機器	放火監視センサー	0	0	1	397	皆増	皆増	
	受信装置等	0	0	0	0	-	-	
光警報装置		0	0	1	480	皆増	皆増	
	光警報制御装置	0	0	0	0	皆減	皆減	
屋外警報装置		0	0	0	0	-	-	
	屋外警報装置に接続する中継装置	0	0	0	0	-	-	
消火器加圧用ガス容器	0	0	0	1	50,000	62.5	62.5	
蓋圧式消火器用指示圧力計	0	0	0	5	445,000	93.2	93.2	
消火器及び消火器加圧用ガス容器の容器弁	0	0	0	5	6,582	118.6	118.6	
消火設備用消火薬剤	0	0	0	6	47,845	172.8	172.8	
住宅用スプリンクラー設備		0	0	0	0	-	-	
	構成部品	0	0	0	0	-	-	
動力消防ポンプ	消防ポンプ自動車	0	3	28	39	1,300.0	1,300.0	
	可搬消防ポンプ	1	0	3	169	73.8	73.8	
消防用吸管	呼称65を超えるもの	0	0	4	621	129.4	129.4	
	呼称65以下のもの	0	0	3	240	120.0	120.0	
消防用ホース	平 40を超えるもの	10	0	2	15,180	117.8	117.8	
	平 40以下のもの	6	0	1	21,129	85.7	85.7	
	濡れ	0	0	0	0	-	-	
	保形	0	0	0	8	10,541	301.2	301.2
消防用結合金具	大容量泡放水砲用	0	0	1	2	皆増	皆増	
	差込式	0	0	14	40	111,464	124.6	124.6
	ねじ式	0	0	37	28	20,482	177.6	177.6
	大容量泡放水砲用	0	0	0	0	-	-	
漏電火災警報器	同一形状	0	0	1	12	5.4	5.4	
	変流器	0	0	11	2,722	43.8	43.8	
受信機	0	0	0	8	2,440	67.0	67.0	
エアゾール式簡易消火具	0	0	0	2	34,980	78.7	78.7	
特殊消防ポンプ自動車	2	0	0	17	20	皆増	皆増	
特殊消防自動車				1	1	50.0	50.0	
可搬消防ポンプ積載車	0	0	0	0	0	-	-	
ホースレイヤー	0	0	0	0	0	皆減	皆減	
消防用積載はしご	0	0	0	0	0	皆減	皆減	
消防用接続器具	1	0	1	14	4,901	252.2	252.2	
品質評価業務				確認評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年 同月比 (%)	対前年 累計比 (%)	
外部試験器の校正				6	20	62.5	62.5	
オーバーホール等整備				5	5	100.0	100.0	

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。
 ※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。
 ※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

受託評価等依頼一覧表

認定評価業務	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年 同比 (%)	対前年 累計 (%)	
地区音響装置	0	0	0	16	25,518	66.6	66.6	
非常警報設備	非常ベル及び自動式サイレン	0	0	43	5,824	79.3	79.3	
	放送設備	1	2	11	66	70,017	111.8	
パッケージ型自動消火設備		0	0	0	0	-	-	
	構成部品	0	0	0	0	-	-	
総合操作盤	0	0	0	0	0	-	-	
屋内消火栓等	易操作性1号消火栓	0	0	0	17	3,610	283.1	283.1
	2号消火栓	0	0	0	16	2,181	545.3	545.3
	広範囲型2号消火栓	0	0	0	10	1,030	572.2	572.2
	補助散水栓	0	0	0	0	0	-	-
	ノズル	0	0	0	21	10,269	151.4	151.4
認定評価業務	装着番号付与 確認評価 依頼件数		更新等 依頼件数	製品確認評価				
屋内消火栓等	消防用ホースと結合金具の装着部	0	2	13	72,986	387.1	387.1	
認定評価業務	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
特定駐車場用泡消火設備	0	0	0	12	21,400	184.0	184.0	
認定評価業務	総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備 (評価)	0							
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備・構成装置	0	0	0	10	10	111.1	111.1	
特定機器評価業務	総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
特定消防機器等	0	0	0	0	15	24,136	617.4	617.4
受託試験及びその他の評価	依頼件数			依頼件数	依頼個数	対前年 同比 (%)	対前年 累計 (%)	
受託試験 (契約等)	0							
受託試験 (その他の契約等)				4	4	皆増	皆増	
評価依頼 (基準の特例等)	1							

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

編集 後記

さわやかな新緑の季節を迎えました。

各地の観光スポットにも観光客が戻り、国内も賑わいを取り戻しつつあります。

当協会でも4月21日に、4年ぶりに一般公開をリアルで開催することができ、多くの方に足を運んでいただきました。400名を超える大勢の方にお越しいただき、とても嬉しく思うのと同時に、とても懐かしく思い、17年ぶりに自然豊かな調布のこの地に戻ってきたと実感できました。

このたび、皆様にお読みいただいている「検定協会だより」の編集後記を担当することとなりました。拙い文章ではありますが、引き続き、ご愛読いただきますよう、努力致しますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、今月号では、北九州市消防局長の本脇尉勝様には巻頭に「北九州市は、1963年（昭和38年）に旧5市（門司、小倉、若松、八幡、戸畑）が対等合併して誕生し、都道府県庁所在地以外では初めての政令指定都市となりました。

2023年（令和5年）2月には市制60周年を迎え、「みらい つなぐ 北九州」をキャッチフレーズに様々な周年事業を展開しています。」という素晴らしい、ご寄稿をいただき、誠にありがとうございました。

6月号では、東京消防庁消防総監の吉田義実様には巻頭のことばを、当協会からは「令和4年度の検定業務を振り返って」などを掲載する予定です。

検定協会からのお願い

検定協会では、消防用機械器具等について検定及び受託評価を行い、性能の確保に努めているところですが、さらに検定及び受託評価方法を改善するため、次の情報を収集しています。心あたりがございましたら、ご一報下さいますようお願いいたします。

(1) 消防用機械器具等の不作動、破損等、性能上のトラブル例

(2) 消防用機械器具等の使用例（成功例又は失敗例）

連絡先 東京都調布市深大寺東町 4-35-16
日本消防検定協会 企画研究課
電話 0422-44-8471（直通）
E-mail
<kikenka@jfeii.or.jp>

発行 日本消防検定協会

<http://www.jfeii.or.jp>

本所	〒182-0012 東京都調布市深大寺東町 4-35-16 TEL 0422-44-7471(代) FAX 0422-47-3991
大阪支所	〒530-0057 大阪市北区曽根崎 2-12-7 清和梅田ビル 4階 TEL 06-6363-7471(代) FAX 06-6363-7475
虎ノ門事務所	〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19 ヤクルト本社ビル16階 TEL 03-5962-8901 FAX 03-5962-8905

検定協会だよりはホームページでもご覧になれます。

当該刊行物にご意見・ご要望・ご投稿がありましたら、本所の企画研究部情報管理課検定協会だより事務局までお問い合わせください。
e-mail : kikaku@jfeii.or.jp 専用 FAX 0422-44-8415



日本消防検定協会